

徳山ダム反対派の市民

導水路不要本に

河村市長見直し表明で

名古屋市の河村たかし市長が徳山ダム（岐阜県揖斐川町）の木曾川水系連絡導水路事業の見直しを表明したことを受け、反対派の市民団体の立場から導水路事業の内容や経緯をまとめた本「徳山ダム導水路はいらない！」（風媒社）が出版された。

著者は「徳山ダム建設中止を求める会」事務局長の近藤ゆり子さん（60）。これまで水需要が伸び悩むなか、ダム建設や導水路事業を進めれば、市民に多額の負担が生じ、環境破壊にもつながると指摘してきた。

164ページで千円（税込込み）。同市上下水道局の資料を基に給水量のグラフを示すなどして「水余り」の状況を説明。「導水路は長良川河口堰と徳

山ダムの建設が正しかったと言いつけるための事業」と批判している。市が事業から撤退するルートについて、水資源機構の担当者が「共同で事業を進める愛知、岐阜、三重県の同意がないといけない」としている点についても、国土交通省の担当課の回答をもとに、「市単独での撤退は可能だ」と指摘している。

8月2日に名古屋市が導水路事業に、「賛成」と「反対」の両派の専門家を招いて公開討論会を開くことに合わせ、出版した。市民が議論を聞く際の参考にしてもらうのが狙いだという。近藤さんは「『ここまでできてやめるのは無理』というのは違うのだと理解して、討論会の議論を聞いてほしい」と話している。



本を出版した「徳山ダム建設中止を求める会」の近藤ゆり子事務局長＝名古屋市役所

名古屋